

健康メモ

喘息死ゼロ運動

広島市佐伯区医師会会長
いくた内科医院院長

生田 隆穂

皆さん、気管

支喘息が原因で
死亡する、いわ
ゆる喘息死がど
れくらいの数な
のかご存知ですか？つい一〇年前ま
では年間七〇〇人もいました。我々
医者仲間でも「喘息で死ぬことは無
い」という誤った認識がありました
が、結構多くの人が喘息で死んでい
ます。それが吸入ステロイド剤、特
に近年ドライパウダー型の吸入薬が
開発されてからはかなり減りました
が、それでも昨年やっと三〇〇人



をかるうじて切ったという所で、欧米などに比べると依然として高い水準です。

喘息死が多い地域は、世界ではどういう所でしょうか？寒冷な地域とか低開発国ではありません。むしろ先進国で気候が温暖な人口密集地域が多いのです。日本においても地域差が非常に大きく、人口一〇万人に對する喘息死の数をみると、一番少ないのは滋賀県で一・六です。逆に一番多いのは鹿児島県で五・六で、やはり気候が温暖な九州・四国地方が上位に名を連ねております。我々が広島県は和歌山県と並んで二・九と残念ながら全国平均の二・六を上回っております。

この喘息死を何とか減らそうというのが「喘息死ゼロ運動」です。具体的に言えば（一）「喘息診療のガイドライン」すなわち標準的な治療法を広く一般の臨床医、いわゆるかか

りつけ医に普及させる。（二）その為には地域の中核病院の喘息専門医と一般の開業医との連携を強める必要がある。特に緊急時対応での病診連携の構築が重要です。（三）患者カードを患者さん全員に持つてもらおう。そこには「私は気管支喘息患者です」と大きく書いてあり、発作時の治療法や薬物アレルギーの有無、使ってはならない禁忌薬、そして緊急時の主治医の連絡先などが明記されています。喘息発作を起こして救急車で搬送される時でも、そのカードを見ればすべての情報が入手でき、搬入先の病院でも速やかに治療を開始でき、それが喘息死の回避に役立ちます。

このようなネットワークを早く作って、
広島市・廿日市市・大竹市の喘息死を限りなくゼロにしたいと考えています。